

テクニカル ダイアリー

秋冬ニンジン

山武経済センター 営農指導員 山本 匠



令和4年産の振り返り

昨年は8月上旬の台風の通過と降雨の影響で、種が流されるなどの被害が発生しました。それ以降は大規模な気象災害もなく、気温が高い日が続いたことから生育は順調に進み、出荷はシーズン通してL・2L中心の太物傾向となりました。

ビーラム粒剤について

ニンジンの規格外発生要因の一つとして、センチュウによる被害があります。対策としては通常、ニンジンの播種前にD・D等の土壌くん蒸剤や殺センチュウ剤を散布します。

ビーラム粒剤(写真①)は、従来の殺センチュウ剤と有効成分が異なり、かつ成分が水に溶けにくいので、降雨の影響も受けにくいと長期効果が持続するといった特徴があります。使用方法は、播種前の全面土壌混和です。D・D等の土壌くん蒸剤のようにマルチ類の被覆を用い

たり、ガス抜き期間を考慮したりといった手間をかけずに済みます。

今回は、ニンジンの正品率向上に対し、すぐにでも取り組める内容として、昨年も紹介した新しい殺センチュウ剤であるビーラム粒剤のJA管内での試験結果を報告します。

ビーラム粒剤の試験結果

令和4年産は、次の条件にて試験を実施しました。

【供試品種】

ベーター441

【処理方法】

ニンジン播種前にビーラム粒剤を散布し、全面土壌混和(10^{kg}当たり20^{kg})。

【調査方法】

慣行区(既存のセンチュウ剤を処理)を設け、ビーラム区と両区のニンジンを抜き取り、センチュウ被害の有無を比較。

試験結果は写真②・表①のとおりです。センチュウ類による被害と想定される発生本数は慣行区と比較して半分以下

となり、慣行区よりも正品率が向上しました。

使用している農薬の効果に疑問を感じ始めている方は、ぜひロテーション防除に本剤を組み合わせてみてください。価格は、お近くの営農・経済センターまでお問い合わせください。



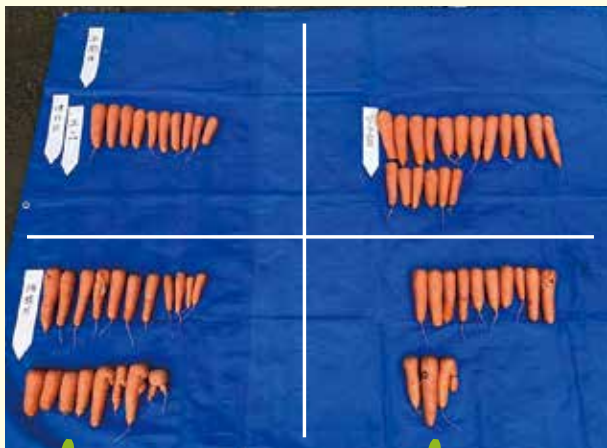
写真① ビーラム粒剤

慣行区

ビーラム区

正品

正品以外



写真② センチュウ被害調査結果

表① ビーラム粒剤の試験結果

	正品	正品以外	センチュウ被害	正品率	センチュウ被害率
ビーラム区	59本	25本	6本	66%	6.7%
慣行区	42本	32本	16本	47%	10.7%